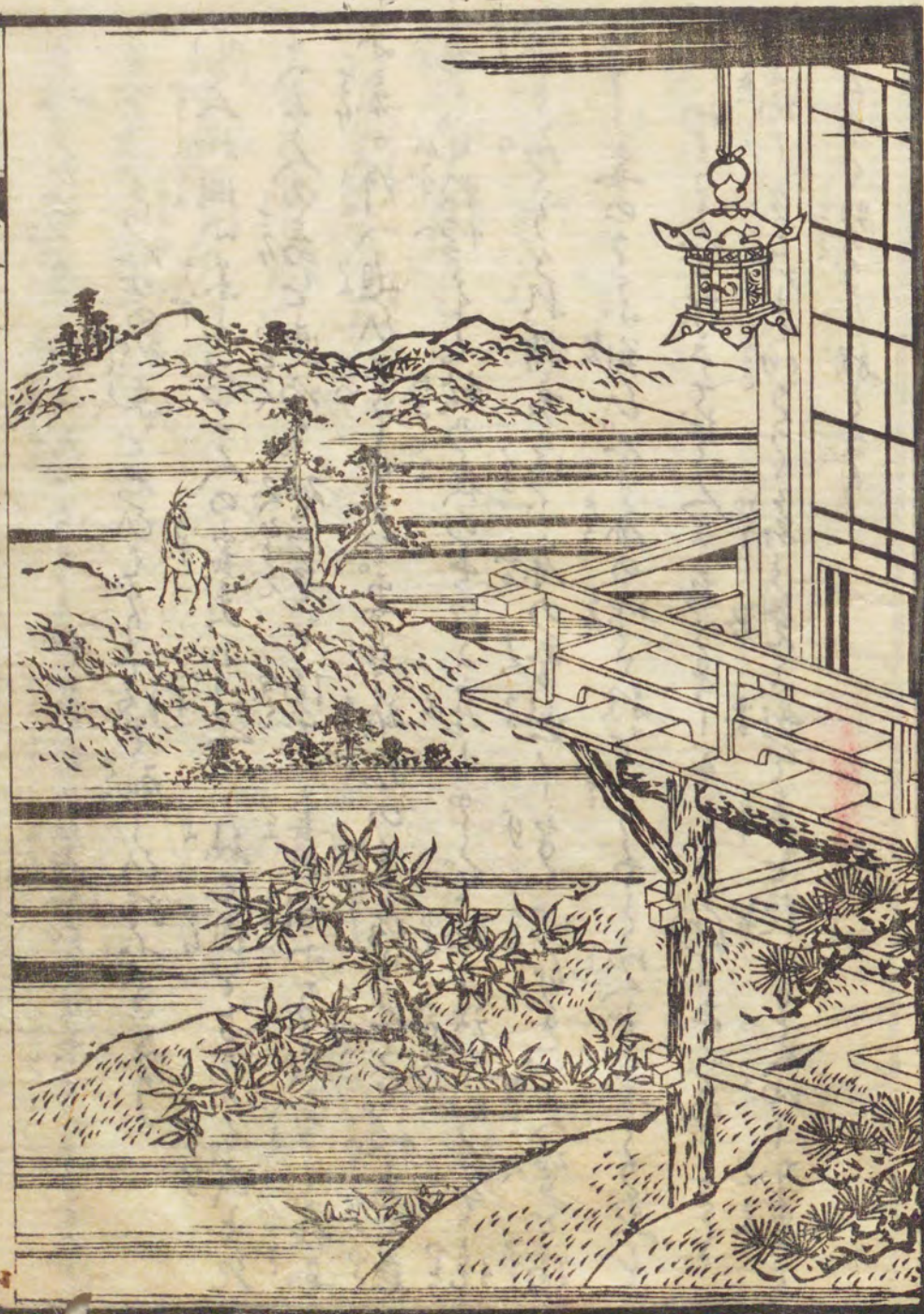


○中へ一箇家の妻
生質難ぬの心陰に
少一の事をも疑ひ
つひ罵り。後、
ひねおして来ひく
八月、夫婦の中
いかに。成も何と
う、淋しく仕度
もけり。病もひ
まゐり。もあずて
さ。明友もいりて



さて他へ使はれ
恥辱へん方なく。
胸をぬきんとて死
て悪者となり。後、
丈女を教へんと
喚く。給ふ。大に
いふ。が丈の親友
ひ女房を推し。後、
丈を大に教へんと
悔きの心も起し。一
い丈の心も起し。一





貞操の
婦人の
心象を
表す

糸方地忍言卷一

○大和國ふ素とつる人の妻。まふ仕く結く肉をとりける。或とれ
まふ人の妻を連ゆる。破て子を痛く妻の周ふろへ置く。夜毎
小妻は作へ通ひあうるを。妻は嫉妬の色も病もする。彼妻を意
ある。目殺候とも。秋乃夜の半に床もやで揺り寝をかぎて往
けし所より折返還ふ床の旁に坐し、室か明けきば又破を痛
だぐ妻のさふ對ひ今々麻の鳴るを聞きやと哭ぐ妻とりあむ。
ゆきと志すがさをせんは憂いしうそをも訴ふ人夢のめきく
少婦よりまばらうと名こそなく形てあを親のり人ゆい申す

○女の心をさう。おと
保つれやう人の氣を
迷わうやうのう。
是をさうする人も人
の徳をふくむとして嫁
ぬの心を養ふことの
うづまふおきて再々
してよく懐くおと
妹の心をおとすに
きかざる必人の徳を
ふくむこと。





全六冊

全四冊

全四冊

全五冊

河内屋茂兵衛

か
み
ろ
ん
き

全部三冊

[illegible]

江戸日本橋壹町目

大陂屋茂吉

大坂心斎橋唐物町北へ町

伏見屋嘉兵衛

京都寺町錦小路上元町

伏見屋半三郎

三都書林

本所
村瀬
玄考